



生成 AI の作業療法への活用 —臨床・教育・研究支援の最前線

特集にあたって

生成 AI の飛躍的發展は、医療・福祉分野に新たなパラダイムをもたらしつつあります。作業療法においても、その波は臨床実践、教育、研究の各局面に及び、専門職としての対応が急務となっています。

本特集では、「生成 AI と作業療法への活用—臨床・教育・研究支援の最前線」と題し、作業療法士が生成 AI を正しく理解し、適切に活用するための包括的知見を提供します。まず生成 AI の基礎理論から医療福祉分野への応用の可能性、さらには個人情報保護等の倫理的課題まで概説します。次に認知症診断支援等、臨床現場での実装事例を紹介します。続いて学生教育における活用法として、講義資料作成支援や生成 AI との対話を通じた学習支援への応用の可能性を論じます。最後に臨床・教育・研究実践に必要な知識を提示します。

AI 時代における作業療法の専門性を再定義しつつ、技術と人間性の調和を探究する本特集が、読者諸氏の実践に資することを期待いたします。

(久保田 富夫)

企画担当

久保田 富夫 (埼玉県立大学, 作業療法士)

山本 伸一 (一般社団法人日本作業療法士協会, 会長)

西出 康晴 (倉敷中央病院, 作業療法士)